

Compass English Communication I

明るいメッセージで 生徒を授業に引き込む

飯田 浩行



まずこの教科書全体を見て思うことは、明るいイメージの写真が多く、生徒にポジティブな勢いや夢を与えてくれる教科書だということです。どのレッスンも美しく、メッセージ性に富んだ写真が本文への扉になっていますので、この特長を生かして授業を始めたいと思います。たとえば Lesson 3 の“Kimonos Are Cool!”であれば、写真を指さしながら、つぎのように生徒に語りかけてコミュニケーションを始めます。

“Class, look at the picture on page 29. She looks very beautiful in her kimono. Its pattern is quite different from ours, but it is very beautiful. What do you think? Do you have your own kimono and how often do you wear it? Japanese traditional kimonos are becoming very popular in the world and more and more foreign people have become interested in them. Let's learn more about our kimonos.”

自分たちの世代では「古くさい」感じになった着物も世界の人々が作ると随分と斬新なものであり、衣装は世界共通の話題であることを生徒に意識させて、「世界モードスイッチ」をオンにしてから、その課の学習に入ります。

Lesson 10 のタイトルは“The Coral Crisis”なのですが、扉がとても美しい写真なので、どのよ

うな話を生徒としようか、生徒のどのようなスイッチをオンにしようかと考えるだけでワクワクします。写真やイラストをきっかけに、生徒にも意見や感想をどんどん言ってもらって授業に生徒を引き込んでしまいましょう。

実際の授業の進め方は、中学校からの流れを生かして Listening—Speaking—Reading—Writing という 4 技能をつなげる流れで指導したいと思います。Listening から入るのは英語に苦手意識を持っている生徒にも好評のようです。キーワードとなる名詞を板書してスキーマとして与えておいても良いかもしれません。英語が得意な生徒が多いクラスなら、語句の意味は英語で与えましょう。CD を聞かせて、内容を聞き取らせ、教科書の **Answer it!** の問題 + α で確認します。ここで必ず「先生の 1 問」を付加しておきましょう。予習してきた生徒や英語が得意な生徒も本文内容を意識しながら再度聞き取りをしなければなりませんし、英語に苦手意識を持っている生徒も先生の「誘導」や「繰り返し」で「先生の 1 問」には答えられるという安心感が得られます。

内容理解度を確認したら shadowing の指導に入ります。各パートを全員ですべて shadowing したら、列毎にセンテンスを割り当て、音声 CD に合わせて順番に shadowing をさせます。つぎに生徒を個別に起立させて、Read & Look up で流暢な英語で発話できているかを確認します。

Speaking の指導では **Focus on it!** を有効に使いましょう。ここでは speaking 力をアップするために必要な英文の型をまずインプットします。



Lesson 3 扉

Focus on it!

代名詞③ (other)

Some cacao farmers are very successful, but **others** face a lot of challenges.

=other cacao farmers

「～もいれば、…もいる」

Check it!

日本語に合うように、適切な語を入れて英文を完成させましょう。

- 心地よい気持ちにさせてくれる色があれば、集中力を高めてくれる色もある。
() colors give us comfortable feelings, and () increase our concentration.
- 納豆が好きな人もいますが、そうでない人もいます。
() people like *natto*, but () don't.

(Lesson 9)

Lesson 9 の **Focus on it!** を例にします。

Some cacao farmers are very successful, but others face a lot of challenges. この文を板書し、クラス全体に間断なく大きな声ではっきりと音読させます。生徒の反応と発音を意識しながら、単語を下線に代えていきましょう。Some _____ farmers are very _____, but others face a lot of _____. などと単語をどんどん消して下線に置き換えます。最後は Some _____, but others _____ というスケルトンの状態にしますが、この指導方法なら英語が得意な生徒も英語に苦手意識を持っている生徒も同じ学習活動に取り組めます。

続いて、**Check it!** に入ります。ここではペアで作業をさせましょう。空所を埋める単語は Some, others であることは容易にわかります。ペアの一方には相手が Read & Look up で覚えた英文を確認させます。例文 2 つで交互にこれを繰り返すことで、生徒は listening と speaking の練習をすることになります。

最後に Hint Box を用いて **Use it!** をペア・ワークさせてターゲット文の型のインプットの仕上げをしましょう。各パートの本文に挙げられた **sound** も全て丁寧に確認すれば生徒の発音も格段に良くなるでしょう。

Reading の指導でもコミュニケーションを意

識して教えましょう。コミュニケーションのための英語指導でいちばん大切なことは情報を正確に読み取るということです。例えば、Lesson 4 などの物語文で Reading を教える時には、登場人物ごとに行動や心理をまとめると良いでしょう。登場人物名を板書して、彼らの行動と言葉を生徒との対話を通して確認しましょう。そして、発話からわかる彼らの心の動きを生徒と話し合ってみましょう。内容によっては時間の経過や論理展開を表す語句 (signpost) を中心にして時系列や論理構成で内容を整理するのもよいでしょう。

Writing の指導には課末の **Practice** と **Enjoy Communication** を上手に使いましょう。ここでも情報の伝達というコミュニケーションの基本を意識します。Practice はイラストを見ながら語句を入れさせる活動がメインですが、与えられた語句を () に入れ込むだけの作業に終わらせないように



(Lesson 6)

に、必ず英問英答をしてから取り組ませます。例えば、Lesson 6 の practice では “Look at the picture one. What is the problem? What help can she give to her mother? What does she want to know?” から Do you know (how) (to) (use) this computer? を導きましょう。

Enjoy Communication は参考例文の語句を入れ替えたものをゴールとしますが、本文から抜粋して与えた型を用いて英文を作らせても良いでしょう。Lesson 10 であれば、 “Here is a photo of... Unfortunately,... To..., we have to...” と与えて、生徒の個人的な意見を引き出します。

この教科書を活用すれば英語力は相当伸びますので、巻末の **Useful Classroom Expressions** もできるだけ授業で使いたいものです。

(いいだ ひろゆき・世田谷学園高等学校教諭・立教大学英語科教育法2兼任講師)